

## 令和4年度 第2回里庄町地域公共交通会議 議事録

と き 令和4年7月25日(月)

15:00~16:30

ところ 里庄町福祉会館2階 研修室

### 開 会

- ・ 出席者 委員12名
- ・ 欠席者 委員2名

### 【会長挨拶】

- ・ 会長よりあいさつ

### 議事

#### (1) 第1回里庄町地域公共交通会議における質疑等について

- ・ 事務局より、訂正事項、報告事項について説明

(委員) 質疑事項3のグラフで、黄色の「現状の高齢者タクシー料金助成事業を継続または拡充することが重要」が、すべての世代で必要であると回答している。これはどのような結果として見れば良いか。

(事務局) 現状の高齢者タクシー料金助成事業について、多くの世代から支持を得ている。例えば家族の中に利用者がいる等、間接的に恩恵を受けている方がいて、助成事業を継続していくのは良いことであると考えている方、現在は75歳以上が対象であるが、もう少し拡充した方が良いのではないかと考えている方、今すぐは使わなくても、今後使えるようになったら良いと考えている方が、一定数どの世代にもいるということであると考えている。

(会長) 10代~30代の方は、高齢者にタクシー助成をするのであれば、デマンドタクシーを走らせた方が自分達にとってはメリットが大きいと考えて、圧倒的にグラフの黄色が少なく、青が多いと予想していた。ところが、10代~30代においても黄色が一定数あるということは、先程事務局からも話があったように、身近な方が利用して助かっているという状況があって、このような結果になったのだと思った。

(委員) 質疑事項3のグラフの「n」は人数か。これを全部足しても、全体のn=850にはならない。

(事務局) 公共交通に対する意向の設問には回答しているが、年代を回答していない方がいるため、各年代の「n」を足しても全体の「n」とは一致しない。

(会長) 質疑事項1にある通勤者の流動状況で、例えば倉敷市へ行く方が627人、倉敷市から来ている方が713人と書いてあるが、倉敷市の玉島等の比較的西側の方が多いのではないか。そうすると電車に乗って来るよりは、車で来る方が多いのではないか。笠岡市も同じで、比較的東側の里庄町に近い方が移動していると想定すると、皆さん車で移動しているのではないかと

- 思う。ただ、国勢調査ではそういう細かいところまでは分からないだろう。
- (事務局) ご指摘のとおり、国勢調査のデータからでは、各自治体のどこに移動しているかまでは分からないのが現状である。これは自動車も電車もすべて含まれている数字である。平成 27 年度は交通手段の調査を行っておらず、更に 5 年前の平成 22 年度であれば、こういった手段で通勤・通学をしているのかというデータはある。
- (会長) 2020 年の国勢調査の交通手段別のデータが出てきたら事務局の方でどういう交通手段で移動しているのか見ていただきたい。

## (2) 里庄町における地域公共交通の将来像について

- ・ 事務局より、地域公共交通の将来像及び移動手段確保策について説明

- (委員) 里庄町内でコミュニティバスは厳しいと感じている。タクシーを利用する場合でも、ある程度まで出てこなければならぬ場所が町内には何か所もある。グリスロの場合も、里庄町内の狭い道路では路肩が不安定で、運行させると事故に繋がるかもしれない。そうなると、デマンドタクシーかタクシーチケットを配布するしかないと感じている。アンケートの結果でも、タクシーチケットの配布は幅広い世代の町民が評価しているということは、もう少しタクシーチケットの配布方法を精査する必要があるのではないか。黄福タクシーの美咲町は、タクシー利用を歓迎しているように感じるが、これは事前ではなく利用後に申請をする形になるのか。
- (事務局) 黄福タクシーは事前に利用申請をして利用者証を交付してもらい、それをタクシーの運転手に見せて割引を受ける形となっている。
- (委員) 先程コミュニティバスが向いていないと言われたが、タクシー自体をコミュニティバスとして利用できることを運輸局から説明していただけたらと思う。
- (委員) 定期バスというと、乗車定員が 11 人以上である等の大きな車両で、基本的に不特定多数の方が 1 台の車に乗り合わせて運行する、昔からあるバスである。タクシー車両を使って乗り合わせることもできる。もちろんタクシー車両であるため、セダン型であれば 4、5 人しか乗車できず、ジャンボタクシーでも 10 人程度になる。車両の大きさについては、運行形態により融通は利くと思う。
- (委員) カッピーのりあい号はスマートフォンアプリで予約できるが、そもそも高齢者がスマートフォンを使いこなせるのか。公共交通の利用が必要な高齢者は自分で予約ができず、家族や周りの方が予約をするので、スマートフォンを使うことはまず不可能ではないかと思う。自分でも里庄町をくまなく走ったが、非常に道が狭いため、ジャンボタクシーでも無理だと思う。公会堂のネットワークがいいので、活用しながらデマンドタクシーを検討するのか。今日紹介があった事例では、わりとしっかり各自治体で費用を使っているが、費用対効果と利用者の利便性もなければならない。行政、利用

者、事業者の三方良しでないとこの事業は上手くいかないと思う。他の事例を見ているが、どこかだけが幸せな事例が多いと思う。あと、各事例について、面積で言えば早島町が里庄町に近いと思う。早島町は比較的ジャンボタクシーが走りやすいエリアである。デマンドやコミバスといった既存のカテゴリに当てはめて考えるのは難しく、完全にオーダーメイドのように考えていかないと難しいのではないかと。

(委員) 浜中地区は中央に国道が通っているため、北と南を一緒に運行することは効率の面から難しいと思う。特に私の自宅周辺は、他の地区へ行くには国道に出るしか無く、他は耕運機でも道幅がいっぱいになり、カートも通ることができない道ばかりである。自宅の周りではどのような方法が良いのか、やはりタクシーを個々に呼んで家まで入ってもらう形以外は考えにくいと思う。

(委員) 1 ページ目の財政負担額を見ると、令和3年度で500万円程度かかっている、1人当たりの財政負担額が487円となっている。これは年間の金額なのか。

(事務局) 年間の金額である。

(委員) そうであれば、結構手軽な値段という印象である。警察署に免許返納のため、1日何人か里庄町や他の市町からも来るが、タクシー券をもらえるかどうか問い合わせる人がいて、利用者の方で申請をする案内をする。「もっと多く使えたら」という話をする人も結構いる。

(委員) 里庄町の高齢者タクシーチケットは枚数を増やしてほしいというのが私の本心ではある。今回の説明でデマンド型乗合タクシーが出てきた。タクシーの魅力はドアツードアだと思っている。コロナの状態がいつまで続くかわからないが、「前に誰が乗ったかわからないものは控えよう」「バスは控えよう」といった状況がある中で、今乗合タクシーを提案するのは良くないのではと思う。今回の説明の中で、里庄町の運行イメージは1人当たり1,850円となっており、本当にこれでいけるのかどうか。1人当たりの公的負担額が相応な値であれば、それをそのままタクシーチケットの充実で充てても良いのではないかとと思う。デマンド型乗合タクシーを提案するのであれば、私はそのように思う。

(副会長) タクシー助成事業、コミュニティバス、デマンド型タクシーの3つのサービスについて説明していただいたが、それぞれの自治体で1つだけのサービスなのか、複数もあるのかお聞きしたい。また、以前は複数運行していたが、今は1つだけになっているところがあればその理由をお聞かせいただきたい。

(事務局) (各自治体のサービス等について説明)

(委員) アンケート調査結果の「年代別の公共交通に対する意向」で、「現状の高齢者タクシー料金助成事業を継続または拡充することが重要」、「どちらも同じくらい重要である」、「コミュニティバスやデマンド型交通を新たに発展させることが重要」と回答した人を合計すると90%台になっている。した

がって、若い人たちが自分の家の事を見て、「高齢者になったら公共交通が必要である」と考えているのだと思う。新庄地区や浜中地区は何度か行った時に、本当に道が狭いと思った。里見地区はコミュニティバスで回れるのではないかという気がする。しかし、新庄地区や浜中地区の事を思うと、48枚も要らないのでタクシー助成の枠を広げて利用できるようにすれば大分違うのではないかと思う。先程委員から乗り合うことに関する意見があった。乗合バスで行くというのは、私としては子どもの頃を思い出して楽しさが湧くが、反対に「近所の人と一緒に行くのか」「ここに行くのがばれる」という気持ちもあろうかと思う。若い人と同居といっても昼間は1人という方もいらっしゃるため、そういう方が気軽に使える足はタクシーだと思う。

(委員) グリーングレスト地区はわりと駅に近い。先日鉄道に乗った時に、行きは下りできっさと歩くことができるが、帰りは荷物が多くなり、真昼で暑くてタクシーを利用するしかない状況となった。私はお稽古事等で公民館によく行くが、時間がバラバラで、乗合タクシーやコミュニティバスで行くにはかなり無理があると思う。それならばタクシー券をいただいて、自分の時間に合わせて行動できるような形にしてもらった方が助かる。

(委員) 予約を取らなくても良い病院であれば、コミュニティバス等で行っても良いと思うが、通常であれば予約を取る必要があり、時間が決まってくる。そうであればタクシー券の方が時間の融通が利くと思う。

(委員) 何のために目的地へ行くのか、住宅密集地なのか、住民が少ないのか、坂が多いところなのか等、考えるべき要因がたくさんあると思う。バイタルリードから説明があったが、市町村によってはそれぞれを組み合わせ、その地域の実情に応じて方法を選んでいる。里庄町では、どのように組み合わせるのが1番使いやすいのか。行政はいくらでもお金が使えるわけではない。移動手段確保だけではなく様々な事にお金を使わなければならないため、コストの面でも、皆さんの利便性の面でも、どちらにも良い方法を色々考えていただき、計画策定に繋げていただきたい。

(副会長) コミュニティバスやタクシー助成やデマンド型タクシーを複合的に使っている自治体もあるようだが、利用者の利用目的や想定する対象者は明確に違うのか。

(事務局) 地域によって様々で、街の大きさや、拠点がどこにあるのかにもよる。里庄町のように通院先は町内にいくつかあるが、買い物は町外へでかける方が多いとなると、乗り継ぎや町外への運行が前提となってきたりもするため、一概には言えない。元々あったバス路線の持続が困難となって運行の検討が始まったものが多く、利用者の方からすると1本で行けるのが理想ではあるが、既存の交通をなるべく活かして組み合わせる方法をまず念頭に置いて、住民の方と一緒に考えていくことが基本的な考え方である。

(副会長) 委員がおっしゃったが、公民館での活動に今は車で来ており、運転免許証を返納してからも色々な活動をしたいという高齢者の方が結構いらっしゃる

と思う。そういう方が本当にタクシーを使ってまで週に何度か来ていただけるのか疑問に感じている。委員が言われたように、障がい者や妊婦といった方も対象にするのであれば、タクシー助成の枠を広げるのか、それとも新たな交通手段を考える必要があるのかということも考えていかなければならない。焼却場の下にプールやスポーツジムができる計画があるが、利用する時に、町内からわざわざタクシーを使うのか、それとも町内を循環するような新たな公共交通手段を考えるのか。今すぐにはないにしても、将来考えていく必要がある。以前、里庄町では高齢者対象のバスを運転しており、週2回、東回り・西回りで老人センターまで送迎していた。確かにバスが通ることができる道ばかりではない。その当時はわりと利用していただいていたが、高齢化が進んでいるという実態を踏まえて、今後はできるだけ公民館や老人センターを使っていただけるようなことも考えていく必要があると感じている。

(会長)

今日は里庄町に路線バスを導入しようという意見はなく、やはり道路の事を考えて小型車両のタクシーが良いのではないかという意見が多かったように思う。これから考えておくべき事はいくつかある。1つはタクシー事業者がいる町というのは非常に素晴らしく、事業者が公共交通を担っていただくというのは皆さんの総意であると思うが、そうは言ってもタクシーの台数は限られている。その資源をどのように有効活用するのかということ。例えば「3人で乗ると1人当たりの負担額が減る」等、何か少し条件をつけて、タクシー会社としても少し儲かって、利用者も少し安くなるような工夫をしながら、限りある資源を有効活用することが大事である。それから費用対効果がとても大事だと思っていて、良かれと思ってコミュニティバスを走らせたなら、空気を運んでいたという話はよくある。自家用車利用に慣れている生活を一気に変えるのは難しいため、段階的に変える考え方もある。一度計画を決めたらそれがずっと続くのではなく、時代に合わせて柔軟に変えていけるよう、計画の中に書いておくべきだと思う。それから、今後はタクシー助成を障がいのある方や、妊婦の方等に広げることも大事だと思う一方、行政負担額の問題もあるため、そこをどのように考えていくのか。満額とはいかなくても少し負担する等、様々な方法がある。これから公共交通計画を作るが、「絵に描いた餅」だけはやめたいと思っており、「これであれば皆が乗ってくれそうだ」「行政もお金を出せそうだ」「事業者も協力できそうだ」と、三方良しの地域公共交通計画を作るべきだと思う。世の中の状態や人々の暮らしは変わるため、柔軟に変化に対応できるよう計画の中に書き込み、適宜計画を見直していけるような方向性を持つのが良い。今日は具体的な交通機関を考えながら将来像のご意見をいただいたので、事務局から次回の会議で地域公共交通計画の具体的な方向性を提示してもらおうということで良いか。

～賛成多数～

その他

- ・今後のスケジュールについて、事務局より説明

閉 会

以上